

## 岐阜農林事務所の普及活動状況

令和2年9月25日現在

## 今月の重点活動

## ■スマート農業 V溝直播「にじのきらめき」の収穫にロボコンバインを使用

瑞穂市巣南町の（農）巣南営農組合では、国の「スマート農業加速化実証プロジェクト」において、各種スマート農業機械を活用し、輸出用米の超低コスト生産を目指している。

輸出用米の「にじのきらめき」が成熟を迎えた9月23日、アシスト運転機能付き汎用コンバインを使用して収穫作業が行われた。同品種は冬季代かきされた水田へ5月に直播したもので、今回使用したコンバインは刈取りや旋回が自動化されオペレーターは運転席で監視のみと操縦負荷が軽減されるばかりでなく、収穫と同時に収量や食味データを収集する機能もあり、良食味米生産に繋がるものと期待されている。

農業普及課では除草対策や水管理について指導するとともに、作付水田の生育調査・坪刈調査を実施しており、今後当該コンバインから得られたデータとの比較や作業性の分析等を行う予定である。

(地域支援第三係・松本 政行)



【にじのきらめきの収穫】

## 多様な担い手づくり

## ■水稲 岐阜農林高校が地元担い手と呼応して「にじのきらめき」を栽培

今年度から北方町では、「コシヒカリ」から品種変更し、耐暑性・多収性を有する早生品種「にじのきらめき」の栽培を始めた。岐阜農林高校も地元農業に関わりながら全国農業高校お米甲子園への出品を目指して、この品種を1haで作付けた。

これらの取組みを繋ぐため、8月に農林高校・JAぎふ・北方町・地元担い手農家で4者協定が締結され、農業普及課も地元稲作農家への技術指導と並行し、農林高校への栽培管理アドバイスや校内水田の生育調査・坪刈調査を実施してきた。

今年度は異常気象のなか、新たな品種で試行錯誤の連続であったが、9月10日にJAぎふから農林高校への穀物乾燥機寄贈を経て、9月15日に稲刈りをする事ができた。

農業普及課では、この様な取組みが地域農業の活性化に繋がると共に同品種の知名度向上、更には農林高校生の地元農業に対する理解が深まるように支援していく。

(地域支援第三係・松本 政行)



【稲刈後の記念撮影】

## ■新規就農支援 家族経営協定締結

9月14日、家族で農業を営む羽島市の2戸の農家が、家族一人一人が意欲的に経営に関わることを目的とした「家族経営協定」の調印式を市役所で行った。

今回は、両家族ともご子息の親元就農を機に、栽培や家事の役割分担、収益配分などの内容を見直し、改めて締結した。

新たに協定に加わったご子息からは、「就農1年目ですが、どんどん農業経営に参画していきたい。」と意気込みを話されていた。

農業普及課では、今後も新規就農者の育成、経営安定に向け指導していく。



【家族経営協定を締結した2世帯】

(地域支援第二係・今井 啓司)

## ■アドバイザー **GLAMAいきいきネットワーク岐阜ブロック研修会開催**

9月24日、GLAMAいきいきネットワーク岐阜ブロックの全体会及び研修会がOKBふれあい会館にて開催された。

全体会では、新型コロナ禍の中でも開催できる活動について検討し、会員間の相互的な視察研修を行うこととなった。

研修会では、会員が講師となり、ハーバリウムボールペン作りについて学習し、全員で作り方を学習した。

新型コロナの影響で活動が縮小しており、今回は久しぶりの活動となったため、多くの会員が出席し近況などの情報交換も積極的に行われた。今後も自主的な活動を支援していく。



【研修会の風景】

(園芸産地支援第一係・福田 富幸)

## 売れるブランドづくり

### ■徳山とうがらし **出荷選別作業中**

昨年度に設立された本巣市の徳山とうがらし協議会では、20名が6月に苗を定植し、8月から出荷している。旧徳山村で栽培されていたこのとうがらしは、一般のものより辛味が強く、大半は青果物として、「おんさい広場」など直売所で販売されるが、一部は赤く熟した果実を乾燥させたのち粉末加工している。協議会では地元の特産物にしようとPR活動を進めている。

農業普及課では、今後も関係機関と連携して、病害虫防除や適期収穫を指導し、安定出荷を図るよう支援していく。



【出荷徹底の様子】

(地域支援第三係・山田 奈巳)

### ■かき **まもなくかきシーズン**

10月1日から早生柿「早秋」「太秋」の選果が各選果場にて予定されている。収穫を控え「早秋」・「太秋」の目揃え会が各振興会で行われ、各家庭での選果基準の確認が行われた。本年は早秋の生理落果、カメムシ類の被害や高温による日焼け果の発生がみられる。

農業普及課からは本年の生育経過および、今後出荷される富有の栽培管理等について指導を行った。収穫は平年並みの10月上旬より開始される見込みである。



【収穫を控えたかき】

(園芸産地支援第二係 小枝 俊仁・水野文敬)

### ■いちご **いちご苗炭酸ガス処理技術の実証について**

9月3、7日、岐阜市いちごほ場2ヶ所にて、いちご苗炭酸ガス処理作業を実施した。この技術は、定植前にいちご苗を炭酸ガスで24時間処理することで、ハダニを駆除し、本ぼでの発生を抑える効果が期待できる。

導入コストは120万円ほどかかるものの、本ぼでのハダニ防除の労力と経費が大幅に軽減できるため、30a以上の規模の生産者での普及を想定している。

今回、農業普及課では、新技術導入普及支援事業にて4ヶ所実証ほを設置し、処理効果を調査するとともに、各研修会で情報提供を行っていく予定である。



【炭酸ガス処理作業】

(園芸産地支援第二係 三和 浩一)